

〈知的・自閉症・情緒障害教育〉

軽度の知的障害のある生徒の自立と社会参加に向けた性教育の工夫 ——実態やニーズに応じた保健体育の授業を通して——

沖縄県立沖縄高等特別支援学校中部農林高等学校分教室教諭 宮 城 哲

I テーマ設定の理由

知的障害者を対象とする特別支援学校の近年の在籍者数増加にともない、文部科学省は、平成20年に特別支援学校の大規模化に対し分校・分教室の設置等についての通知を出している。この在籍数増加の要因の一つとして国立特別支援教育総合研究所（以下「特総研」とする）は、知的障害の程度が比較的軽度の生徒の数と割合が「全国の特別支援学校の高等部で特に増加している」（2010）と指摘している。このことは、軽度の知的障害のある生徒の特性に応じた教育を行うことが今後の特別支援教育の新たな課題の一つであることを示している。

本県においても、このような現状を受けて沖縄高等特別支援学校中部農林高等学校分教室（以下「中農分教室」）が平成22年度に中部農林高校内に設置された。中農分教室は軽度の知的障害のある生徒を対象としており、各学年1学級10名、合計30名の生徒が在籍している。全員が地域の中学校の通常学級又は特別支援学級から進学している。また、ほとんどの生徒が一般就労することを希望しており、職業教育を中心とした教育課程によって自立をはかることを目標としている。

軽度の知的障害のある生徒の増加等から特総研は、軽度知的障害に関する実態調査（アンケート調査）を平成23年度に行っている。その中で、軽度の知的障害のある生徒（高等部）の生徒指導上の課題として最も多かった項目が「不登校」（178件）、以下「不健全な異性との交遊」（153件）、「精神症状」（130件）、「喫煙」（83件）があげられていた。その中でも特に高等特別支援学校だけに限ると、半数以上の学校が「不健全な異性との交遊」が課題であると回答していた。性に関わる課題については、一般社会においても、誤った情報等から若い世代の性感染症の増加や望まない妊娠、最近ではLINE等の情報ツールを使った性被害・加害等の問題も増えており、「不健全な異性との交遊」を含む「異性との関わり方」は障害の有無に関わらず現代の青少年の共通の課題であると言える。

特に軽度の知的障害のある生徒の場合は、コミュニケーション能力や判断力、記憶力等に課題がある場合が多いことから、なおさら「異性との関わり方」等を含む性に関する指導が必要である。例えば、中農分教室でも設置以来の4年間における問題行動の半数近くが「異性との関わり方」に関する事項であったという事実がある。こうしたことから、分教室では軽度の知的障害のある生徒の実態や行動特性により、他者との関わりを通して生徒が性被害・加害者にならないよう予防的な性教育を行うことが喫緊の課題である。

これらのことを踏まえて本研究では、まず自他の心や体についての知識・関心を持つこと、異性との関わり方を含め望ましい行動選択ができることの2点を性教育の中心として保健体育の授業に取り組んでいきたい。行動選択の意義や責任等について理解を促すことは、性教育のみならず、将来の社会生活や自己実現に必要な能力、態度の向上にもつながっていくと考える。また、性に関するアンケート調査を生徒、保護者に実施し、そのニーズに応じた授業を行うことで、性についての知識・関心及び自己理解を深めることができると同時に、性教育に対する保護者等の不安を解消する糸口にもなると考える。

すなわち、性教育を通して生徒が自己としっかりと向き合い、望ましい行動選択について学ぶことが、軽度の知的障害のある生徒の卒業後の目標である自立と社会参加につながっていくのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

〈研究仮説〉

- 1 軽度の知的障害のある生徒の性教育において、個々のニーズに応じた小集団での授業を行うことで、自他の心や体について知識・関心を持ち、異性との関わり方を含めた望ましい行動選択ができるであろう。
- 2 軽度の知的障害のある生徒の性教育において、生徒が自分の将来の姿をイメージし、自己と向き合う場面を設定することで、自立と社会参加に向け努力する態度を身につけることができるであろう。

II 研究内容

1 性教育実施の課題

前述の理由から、障害のある生徒への性教育の充実が一層望まれるところであるが、性教育の存り方については近年様々な議論があり、避妊具の使用等、知的障害のある生徒の発達段階を考慮しない、行き過ぎた指導があったとして大きな問題になった事例もあった。このような問題は、これまでも度々言われてきた「性教育によって寝た子を起こすな」という議論につながるものであり、こうした困難かつデリケートな問題の性質から知的障害特別支援学校においては、これまでに比べ性教育が積極的に実施されているとは言い難い状況がある。実際に、児嶋・細淵（2011）が行った全国の「知的障害特別支援学校における性教育に関する実態調査」でも、8割強の学校が性教育を実施する際に困難を感じていると回答しており、知的障害特別支援学校において、多くの教員が試行錯誤しながら性教育を実践している実態が明らかになった。

しかし、前述のように特に高等特別支援学校においては、性の問題に対応した性教育を行うことが喫緊の課題となっている。対症療法的な指導ではなく、知的障害のある生徒が主体的に性教育を学ぶことによって、個々の性の課題に向き合い、予防的に解決していくことが可能になると考える。そこで、確固たる理論に裏付けられた性教育を実施するために、軽度の知的障害のある生徒の特性に応じた性教育の意義や指導方法、留意点等について理論研究を行った。

2 軽度の知的障害のある生徒の性教育を行うには

(1) 性に関する指導の定義

特別支援学校高等部学習指導要領（知的障害）「保健体育」科解説（2009）において「一人一人の生徒の知的障害の状態等を踏まえ、身体的成熟や心理的発達に合わせて、異性との交際の在り方、身だしなみや服装、態度など社会生活への適応を図るための指導を行う必要がある。性に関する指導を行う場合は、生徒個々の知的障害の状態等に応じて、適切な指導内容を設定し、家庭との密接な連携・協力が必要である。また、異性との交際と合わせて、結婚や妊娠・出産についても家庭科の指導と関連して取り扱うことも大切である。」と示されている。知的障害の状態等に応じることに加え、本研究仮説である異性との交際の在り方について特に記述されている。

また「社会生活への適応」が目標となっていることから、単に性の知識等を教えるのではなく、本研究テーマである「自立と社会参加」へつなげていくよう指導することが重要であると考えられる。

(2) 性に関する指導実施上の留意点

小・中・高学習指導要領解説（性に関する箇所）（2008、2009）において

- ① 発達の段階を踏まえること
- ② 学校全体で共通理解を図ること
- ③ 保護者の理解を得ること
- ④ 集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うこと

の4点が各「性に関する指導」の該当箇所に挿入された。以上の4点は、前述の「性教育によって寝た子を起こさない」ことにつながる必要な配慮であり、これらのことを特に留意して性教育を計画・実施する必要がある。

(3) 軽度の知的障害のある生徒の実態

山梨県教育委員会の平成22年度山梨県特別支援教育振興審議会資料において「軽度の知的障害のある生徒の特徴的な様子」が述べられており、その内容は中農分教室の生徒の様子にも概ねあてはまる（表1）。また、前述の特総研が行ったアンケート調査では、軽度の知的障害のある生徒に特に必要と思われる指導内容として「対人コミュニケーション」（343件）、「社会生活のルール」（303件）、「基本的生活習慣」（172件）、「職業能力の育成」（160件）が挙げられている。中農分教室においても、まず初歩的な「対人コミュニケーション」であるあいさつや礼儀作法等の「社会生活のルール」を学習した上で、将来の自立や就労に結びつく事項の指導を行って

表1

「軽度の知的障害のある生徒の特徴的な様子」

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○日常生活の会話はほぼ可能である。○日常生活（食事、排泄、身の回りのこと等）にはほとんど支障がない。○抽象的概念の理解が困難である。○健康状態は良好で、活動的なことから社会的な問題等をおこすこともある。○失敗体験等から自信不足や不登校傾向等の二次障害を示すことがある。 |
|--|

（山梨県特別支援教育振興審議会資料を一部改変）

いる。その際は、表1にもあるように軽度の知的障害の特性から、抽象的な表現ではなくできるだけ具体的な場面を設定する、他人の存在を意識した行動ができるようにする、「報告、連絡、相談」を徹底する等、社会参加の場面が意識できるよう指導している。

(4) 軽度の知的障害のある生徒の教育課程の課題と性教育の関係性

中農分教室は、「生徒一人一人の特性等を最大限に発揮させ、将来の職業的・社会的自立を図り、働く喜びと誇りをもち自他ともに敬愛する心豊かな人間の育成をめざす。」という学校教育目標のもと教育活動を行っている。特に、職業的自立については、年2回（3年生は3回）、各2週間の就業体験を実施しており、職業に関する科目は種類、時間数とも多く設定している。しかし、軽度の知的障害のある生徒に特に必要だと述べられていた「対人コミュニケーション」や「社会生活のルール」を含む社会的自立に関する教科・領域については、関連する教科の時間数や体験的な活動等が少なく、職業的自立を目指す教育プログラムの充実性に比べると十分であるとは言えない。

特総研も今後の課題として「『必要性の高い指導内容』をどう教育課程に位置づけ、実践していくか、今後は各特別支援学校における実践研究がなされることが期待され、効果的な指導方法等について検討する必要がある。」としている。こうした課題に対して、自他の個性を尊重するとともに、男女平等の精神や望ましい人間関係を構築することなどを目標とした性教育は、社会的自立に対する意識の向上や態度の育成につながる非常に効果的な指導内容が含まれていると考える。

(5) WYSHプロジェクトによる性教育

木原は、文科省と厚労省の共同プロジェクトとして、平成11年度から現在まで、全国20万人以上の青少年の性に関する調査を行い、WYSHプロジェクトを開発した（図1）。その中で、行動の変化を無関心期、関心期、行動期、維持期に分け、その行動段階に応じた予防教育としての性教育が必要であると述べている。生徒が、無関心期から関心期に移行するためには、リスクパーソナライゼーション（自分にもリスクがあるという意識の醸成）が必要であり、それは生徒にできるだけ身近なリスクでなければならないとしている。こうした理由から、アセスメントによって個々の細かな性の意識や性の行動段階を知ることが性教育で最も重要であると述べている。そのアセスメントに応じた個々のクラスや学年だけのオーダーメイドの性授業を行うことが必要であり、性の意識も調査せずに授業を行うことは、逆効果の可能性「寝た子を起こすこと」もあるとしている。

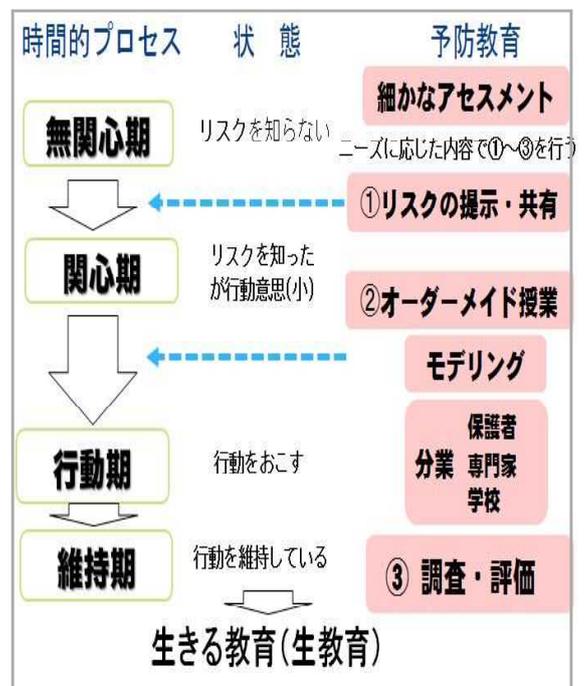


図1 WYSHプロジェクトによる性教育（一部改変）

また、性教育を外部講師へ丸投げすることなく保護者・学校・専門機関等がそれぞれの自分の役割を明確に自覚し、連携しながら性教育を行うこともWYSHプロジェクトの特徴である。一例として、性経験者等の性のリスクの高い生徒に対しては、さらに詳しい予防情報や支援を保健所の相談・検査サービス等で行うことが必要であり、こうした機関へと生徒をつなげることも学校の役割の一つだとしている。

そこで、中農分教室においても性に関するアンケートを実施し、分教室の生徒が性に関してどう認識しているのか調査する必要があると考えた。また、ほとんどの分教室の生徒が無関心期にあることが想定されるため、分教室における性教育については、誰にでも性のリスクがあることを徹底して確認することが不可欠になると考える。このようなリスクマネジメントを前提とした行動選択の考え方を学ぶことは、軽度の知的障害のある生徒が目指す自立と社会参加へ向けた今後の人生における行動選択の基礎になると考える。

(6) 知的障害のある生徒の性教育の理念

北沢（2005）は、著書の中で、特別支援学校教諭から以下のような内容の手紙が届いた事例を紹介している。「卒業後、男女関係に失敗し、望まない妊娠と中絶を繰り返す女子を見てると、

在学中に社会人として最低限必要な性に関する指導・支援が足りなかったのではと反省しきり。教え子に申し訳ない気持ちで一杯です。」といった障害者の性についての切実な内容の手紙であり、こうした理由から北沢は「知的障害のある子どもや悩んでいる親、教師の現状を何とかしなければならぬ。」と考えたと述べている。

その中で、北沢は「性教育とは、人権教育である」とし、図2のような「性教育の樹」を示している。この図の中で自己肯定感を育て、自己決定力を養うことを樹の幹として左側の課題（処置教育、生理教育、生殖教育）を望ましい保健行動へと意識して指導することが必要であると述べている。こうして、しっかりとした信念に基づいた性の指導によって「自立生活」へそして恋愛・結婚へと進み、障害者であっても社会の一員として社会参加の道を歩んで欲しいと述べている。

このような理念のもと、軽度の知的障害のある生徒にとっても樹の左側の行動選択を正しく行い、幹の自己肯定感を育み、右側の社会的自立へつなげることが性教育の目標になると考える。中農分教室に入学してくる生徒の実態として、障害が軽度であるからこそ、障害の受容が難しかったり、通常の小中学校での失敗体験等から自分に自信を持ってない生徒も多い。また、クラスに話せる友だちがいなかった等の理由から、自分はみんなと違うと不安を持ったり、学校や社会に違和感を感じている生徒も多い。性教育は、このような分教室の生徒を安心させ、自己と向き合わせ、他人や社会を尊重する態度を育成して社会的自立へつなげる重要な教育であると考え（図3）。

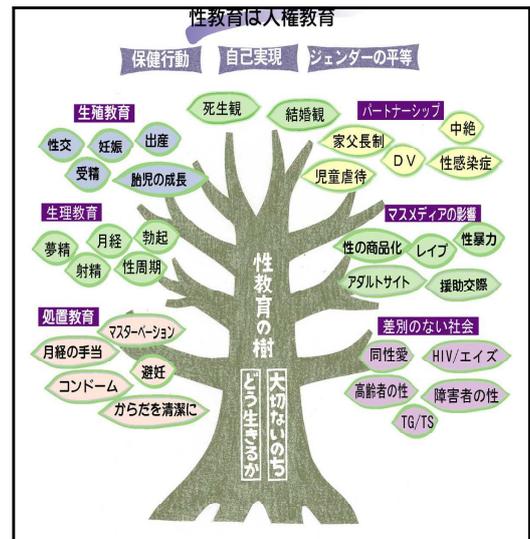


図2 性教育の樹



図3 軽度の知的障害のある生徒の性教育後の姿のイメージ図

Ⅲ 研究の実際

1 生徒、保護者の性に対するニーズや不安を知るためのアンケート調査の分析

生徒、保護者の性教育に関するアンケート調査を行った。28名中27名の生徒が回答し（当日欠席1名）、保護者も28名中25名が回答した。生徒の性教育に関するニーズを知るために、「性教育でもっとも知りたいこと」の質問に約半数の生徒が「恋愛について」と回答しており以下「男女交際」、「子育て」、「妊娠・出産」、「家族の役割や愛情」、「男の体・心」の順となった（表2）。また、「将来結婚したいか」、「将来自分の子どもが欲しいか」の質問に対して「結婚したい」が20名、「自分の子どもが欲しい」が18名と多いのが目立った。こうした恋愛や結婚等についての関心が高い一方、将来の自分の姿に家庭生活の様子等を具体的に記述した生徒は少なかった。また、自分の体の成長に対する不安に関する記述が特に男子に多いのが目立った。

表2 性教育でもっとも知りたいこと

①恋愛について	14名
②男女交際	7名
③子育て	6名
④妊娠・出産	5名
④家族の役割や愛情	5名
④男の体・心	5名

保護者に対するアンケート調査では、学校における性教育の実施について、思春期である等の理由から「ぜひやるべきである」が13名であったのに対して「内容によってはやって欲しい」9名、「内容にもよるがあまりやらないでほしい」1名、「わからない」2名となっており性教育の必要性は感じているものの性教育の内容については不安を持っている様子もうかがえる。そこで、性教育で指導してほしい内容と指導してほくない内容について聞いたところ、指導して欲しい内容としては「男女のからだの違い」、「男女交際」といった身体やコミュニケーションに関する基本的な事項についての要望が多く、指導して欲しくない内容として「妊娠・出産」、「性交（セックス）」、「避妊の基礎知識」といった性交に関わる具体的な内容に関する事項が多かった（図4、図5）。

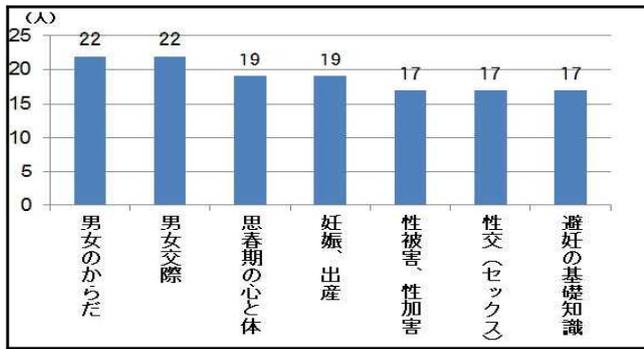


図4 性教育で指導してほしい内容（保護者）

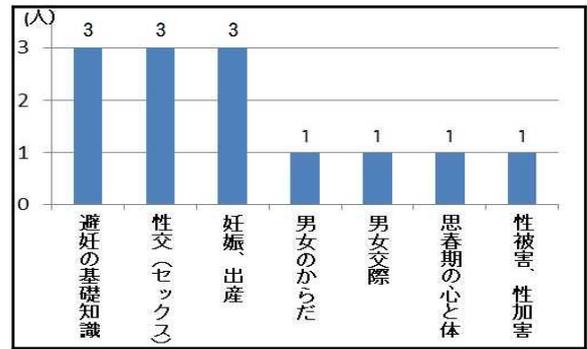


図5 性教育で指導してほしくない内容（保護者）

こうしたアンケート結果から「自分の身体」や「男女交際」等の基本的な事項については多くの保護者が指導を望んでいること、「性交（セックス）」や「避妊の基礎知識」といった具体的な事項についての指導は望んでいない保護者もいること、生徒の実態等によって性教育に対する保護者の意識の差があることがわかった。木戸（2004）や大久保（2008）の行った知的障害者や自閉症の保護者へのアンケート調査でも、男女の性の役割や月経等の自分の身体に関する事項、異性への接し方や社会でのマナー等の基本的な事項について性教育で取り上げて欲しいとなっており、中農分教室の保護者アンケートとほぼ同様の結果になっている。

2 性教育指導計画

前述のアンケート結果等をもとに実態やニーズに応じた性教育を次のように計画した（表3）。最終目標である自立と社会参加へつなげるため、性教育共通テーマとして「すてきなオトナになるために」という題材名を設定し、大人になる、自己実現するためにどう行動していけばよいのかということ授業の主テーマとした。

検証授業1においては、将来の自分の姿を具体的にイメージできていない実態から、実際に結婚や子育てをしている卒業生の姿をモデルとして提示することによって、将来の自分の姿をイメージし、望ましい行動選択につながることをねらいとした「モデリング」の手法による授業を設定した。

検証授業2においては、自分の体の成長に対して不安を持っている生徒が多い実態から、専門家から正しい知識を学ぶことで、性に関する知識・関心を高めることをねらいとした授業を設定した。

表3 性教育指導計画

	計 画	内 容	備考(指導方法等)
第1次 5/14	・オリエンテーション ・性アンケート（生徒） ・性アンケート（保護者）	・保健学習の意味（命の学習） ・性への関心・知識・将来像 ・性教育の必要性・不安	・集団学習（28人） ・保健体育（1時間） ・パワーポイント（PP）
第2次 5/28	・検証授業1 ・翌週から就業体験（2週間）	・すてきなオトナになるために～卒業生の子育て奮闘記～ ・就業体験（2週間）と関連づけ	・集団学習（28人） ・チームティーチング（TT）（分教室職員3人） ・保健体育（1時間） ・PP、ビデオ、ワークシート
6/30	・性教育講演会（中農高）	・中高生の性の現状について	・全体集会（講師講話）
第3次 7/9	・グループ別学習希望調査（6/16） ・検証授業2 3校時 グループ別学習 ・検証授業2 4校時 グループ発表	・希望するテーマと聞きたいこと ・すてきなオトナになるために～専門家の先生に聞いてみよう～ ・相談できる各専門機関の紹介	・集団学習（28人） ・保健体育（20分） ・グループ別学習（6～8人） ・TT（講師4人・分職員5人） ・PP、ビデオ、ワークシート ・集団学習（28人） ・TT（分教室職員5人） ・PP、CD、ワークシート
第4次 7/14	・性教育のまとめ ・ワークシート記入	・振り返りワーク、感想発表	・集団学習（28人） ・保健体育（1時間）

3 検証授業1と研究仮説の検証

(1) 題材名「すてきなオトナになるために」～卒業生の子育て奮闘記～

(2) 本時の目標

卒業生の話を聞いて将来の自分の姿をイメージし、自立と社会参加に向けた望ましい行動選択について考える。

(3) 本時の展開

時間	学習内容と生徒の活動	教師の支援及び留意点	授業の工夫
導入 8分	1 アンケート結果を振り返る。 ①男女別に「異性のよいところベスト3」を発表する。 ②「性教育で学習したいこと」「将来結婚したいですか」等の項目の結果を発表をする。	1 アンケート結果から自己を振り返るよう言葉かけをする。 ①自分のよいところやなりたい自分について考える。 ②結婚や子育て等を含む自己の将来像について考える。	・主体的学習 アンケート結果の提示 ・視覚教材 パワーポイントの使用
展開1 12分	2 本時のめあてを確認する。 ①将来の自分の生活について ②行動選択について 3 「卒業生の子育て奮闘記」を視聴する。 (Aさん…DVD) (Bさん…パワーポイント)	2 本時は「社会的自立」についてイメージする時間であることを確認をする。 3 卒業生の話を聞く。 ①給料や仕事時間、子育てについて確認する。 ②パワーポイントの台詞を音読しながら進める。	・モデルリング 望ましい成功例の提示
展開2 20分	4 ワークシート「10年後の私」に自己の将来像を記入する。 5 隣の人とを発表しあう。 (時間があれば全体にも発表する…数名) 6 自己実現を妨げるトラブル(リスク)等について挙げ、自分で回避できるものか考える。	4 ワークシートに記入する。 ①「将来の自分の姿」 ②「今の自分の状況」等について意識する。 5 隣の人の意見のいいところをみつけて認めることを確認する(机間巡視 T2) 6 望まない妊娠、喫煙、努力不足、自然災害等、言葉かけをしイメージしやすいようにする。	・主体的学習 ワークシート記入話し合い活動発表 ・リスクパーソナライゼーション(リスクの提示)
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>高校は自分の人生の土台となる大切な時期です。一生の思い出となる楽しいできごともあるでしょう。しかし、性についての誤った行動選択は自分や相手の人生を左右する大きな問題となることがあります。大切な人生。自分がどう生きるかは自分で決めるしかありません。高校生としてみなさんが「目標を達成するために今やるべきこと」は何なのか最後に考えて欲しいと思います。</p> </div>			
まとめ 10分	7 ワークシート「目標を達成するために今やるべきこと」を記入する。 8 隣の人とワークシートを発表しあう。 9 今日の学習を振り返る。	7 ワークシートに記入する。 (机間巡視 T2) (CD歌詞内容説明 T1) 8 隣の人の意見について肯定的に聞けるよう支援する。 9 今日の学習を振り返り、感想を書く。	・モデルリング 生き方についての歌詞の提示

(4) 軽度の知的障害のある生徒に対する授業の工夫

抽象的な事項の理解が難しい軽度の知的障害のある生徒の特性から、具体的・視覚的な教材を使用する、望ましい成功例を示し、生徒が将来の望ましい自分の姿をイメージすることを授業のねら

いとした。望ましい成功例として、自立を果たし社会で活躍している本校卒業生二人の結婚生活や子育て、仕事等についてインタビューしたビデオやスライドを視聴することによって、将来の自分の姿をイメージしやすいようにした。なお、性教育の授業全体を通してパワーポイント等の視覚的な教材を効果的に活用し、生徒が性の課題について理解しやすいようにした。また、集中が長続きしない知的障害の特性から、講義の後に話し合い活動や体験活動、発表等の自主的な活動、役割のある活動をできるだけ取り入れ、軽度の知的障害のある生徒が主体的に自分の性の課題に取り組めるようにした。

- (5) 研究仮説2「軽度の知的障害のある生徒の性教育において、生徒が自分の将来の姿をイメージし、自己と向き合う場面を設定することで、自立と社会参加に向け努力する態度を身につけることができるであろう。」の検証

検証授業1「卒業生の子育て奮闘記」の授業で記入したワークシート「10年後の私」では、オリエンテーション時に記入した「10年後の私」と比べて現実的な記述が増えた(表4、表5)。検証授業前は、「かわいくなりたい」、「身長が高くなりたい」等の容姿・性格等の将来像の記述が最も多かったが、検証授業におけるワークシートでは、仕事等の職業的自立と家庭等の社会的自立の両方をイメージした記述が最も多くなったことから、モデルの提示は効果があったと考える。また、「目標達成するために今やるべきこと」についてもほとんどの生徒が現在どういう行動をとればいいのか具体的に記述することができていた

(表6)。その理由として、将来の自分の目標をイメージできたことから現在の望ましい行動選択について具体化できたのだと考える。こうしたことから、具体的なイメージを想起することが難しい知的障害の生徒の授業において、視覚的な教材を使用すること、モデリングを行うことは有効だと考える。

卒業生が子育てと仕事を両立させながら奮闘している様子を見て、子育てが大変なことや自立することの厳しさを実感したという感想も多かった(表7)。分教室の生徒が、結婚生活や子育ての素晴らしさとともに、現実の厳しい一面を知ることができたことは、自立と社会参加へ向けて前進するためのステップになったのではないかと考える。

表4 「10年後の私」(ワークシートより抜粋)

- 結婚して、子どもが2～3人いて、読谷に家を持っている。仕事はおとうをこえるとび職人になっている。
- 結婚して子どももいて調理師の仕事をしている思いやりのある父親になりたいです。

表5 「10年後の私」の意識の変化

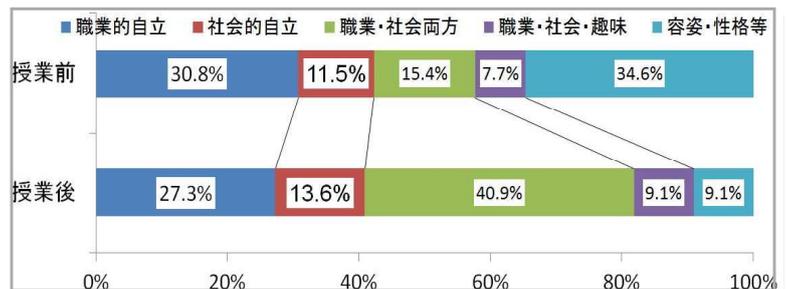


表6 目標を達成するために今やるべきこと

(ワークシートより抜粋)

- 就職できるように就業体験でいい評価をとる。
- 性のトラブルに気をつける。
- 介護の勉強をすること。
- 今やっている部活やもうすぐ始まるインターハイで頑張ることが将来につながる。

表7 「卒業生の子育て奮闘記」授業後の感想(一部抜粋)

- 自分はただ、大人になりたいとだけ考えていたけど、今日の勉強をしてちょっと甘かったと思いました。大人になる前に、家の手伝いや両親に感謝すること、友だちと楽しく過ごしたいと思いました。
- 熱をだしたり、お金がかかったりして子育てが大変だということがわかった。
- すてきな大人になるために今を必死に頑張りたいです。
- 自分の理想と現実がだいぶ違ったので、理想だけでなくちゃんと現実もみたいと思いました。
- 人とコミュニケーションをとるのが苦手ですが、これから話せるようにしたいです。

4 検証授業2と研究仮説の検証

- (1) これまで中農分教室においては、集団学習〔1、2、3年生全員(男女共習)〕で保健の授業を行っており、性差や発達段階、生徒の興味関心に応じた性教育を行うことに課題があった。そこで今回グループ別学習を設定し、本研究サブテーマである「実態やニーズに応じた保健体育の授業」

ができるよう授業形態等を工夫した（表8、表9、表10、表11）。

表8 男女交際グループ

名称	男女交際グループ
講師	特別支援学校寄宿舎指導員（男性）
人数	男子7名
目標	①思春期について知り、異性に関心を持つことは自然な発達であることを知る。 ②「自分の気持ち」だけでなく、「相手の気持ち」を考えた人間関係を考える。 ③性的欲求の強さ、表れ方には個人差、性差があることを理解とする。
学習内容	1 思春期について 2 異性について ※同性に興味のある生徒 3 付き合い方について のことも考慮して行う。 4 質問タイム
感想	○自分は好きな人を疑うことがあるが、信じることはすごく大事だと知ることができた。 ○交際を甘く考えてはだめなことを知った。 ○男女交際やDVなどについて学んだ。正しい情報を見つける力を持ちたい。 ○自分や相手の体や心をよく知り、一人一人の命を大切にすべきだと思いました

表9 妊娠・出産グループ

名称	妊娠・出産グループ
講師	特別支援学校寄宿舎指導員（女性）
人数	女子6名
目標	①自分は愛されて産まれてきたことを実感し、自己肯定感を高める。 ②妊娠のメカニズムについて認識する。 ③命の誕生の意味を理解し、その後の育児や保育のイメージを持つ。
学習内容	1 学習内容の説明 2 命のもとについて ※誕生学の 3 妊娠・出産の過程 プログラムに 4 誕生の喜び 沿って進める。 5 DVD視聴 6 セルフケア意識 7 質問タイム
感想	○講師の先生に「産まれてきてくれてありがとう」と言われて、とっても涙がポロポロあふれ出てきました。これからも自分のことを大事にして生きていきたいです ○親からもらった大事な命を大切にしながらこれから生きていきたい。 ○お母さんがお腹の中の赤ちゃんに気づく前には、シャー芯より小さなことを初めて知った。 ○赤ちゃんを産んだ母親は「産んで良かった」と思っているんだなあと思った。今日学んだことは忘れません。

表10 性被害・加害（ストーカー）グループ

名称	性被害・加害（ストーカー）グループ
講師	障害者デイサービス所長（女性）
人数	男子5名、女子2名
目標	①身近な所で起きている性被害の事実を知り、自分を守る力を育てる。 ②性被害を想定した場面において、自分がどのように対処すべきかを考える。 ③ストーカー等の性加害について知り、自分の行動に責任を持つ。
学習内容	1 学習内容の説明 2 性被害・加害について 3 ストーカー行為とは 4 性被害を想定した場面における行動について

	5 性被害にあわないために 6 質問タイム
感想	○DVやストーカーについて勉強した。特に男子は、暴力やストーカー、相手との距離に気をつけていきたい。 ○いたずら電話をやらないようにする。ストーカーは犯罪になることがわかった ○好きな人から振られたのに何回もこくことはストーカーである。 ○自分はパーソナルスペースを今後守っていきたいと思います。

表11 男の身体、気持ちグループ

名称	男の身体、気持ちグループ
講師	特別支援学校教諭（性教育研究で大学院在学中）（男性）
人数	男子7名
目標	①思春期における身体と心の変化について理解する。 ②男女の身体や心の違いを理解しお互いを大切にすることを育てる。
学習内容	1 アイスブレイキング 2 個人差について ※質問に対して 3 二次性徴の身体と心について しっかりと答える 4 質問タイム ようにする。
感想	○自分は身長が小さいのでコンプレックスだったんですけど、今日の話聞いて身長は個人差があるんだあとわかり、安心しました。 ○人によって声が変わる人と変わらない人がいることを知った。 ○自分は身長をのばしたいので、先生にこうしたらいいよというのを聞いてよかったです。 ○体の変化も人それぞれなんだと分かって安心しました。

(2) 実態やニーズに応じた授業の工夫

生徒の興味関心のあるテーマごとに分けたグループで学習を行うことによって、性に関する行動や興味関心の個人差が大きい軽度の知的障害高等部生の特性に応じた性教育を行うことをねらいとした。アンケート調査に基づいた同性のグループを編成することによって、異性の目を気にせず自分の身体や心と向き合うことができると考えた。

なお、各グループの講師には、日頃から障害児の性教育を実践している特別支援学校寄宿舎職員や障害者デイスサービス所長、現在、大学院で性教育を研究している教諭等の専門家をお願いした。同性の専門家の先生による講義や社会生活の経験を聞くことで、生徒が将来の自分の姿をイメージしながら正しい性知識を学ぶことができ、思春期特有の性の悩みについても相談しやすい環境を設定できると考えた。初対面の専門家の先生から学び相談する能力は、卒業後多くの行政機関や相談機関と上手く係わることが求められる軽度の知的障害のある生徒にとって是非身につけたい能力であり、社会的自立へ向けても必要な能力であると考えた。

(3) チームティーチングの連携の工夫

集団指導は分教室職員との3名体制のチームティーチング（以下「TT」とする。）、グループ別の指導では、各グループ講師と分教室職員の9名体制のTTを企画した。本研究テーマと視点がずれてしまうことがないように各グループの講師の先生方に研究資料や本時の指導事例を送付し、話し合いを重ねることで共通理解を図った。このようにTTの連携を密にして共通理解を図ることは、生徒の発達段階や個に応じた指導が必要な性教育を実施する際の重要な留意点であると考えた。

なお、各グループとも講師の先生と分教室職員との組み合わせでTTを実施した。性についての専門的な事項については講師の先生、生徒の個別的な配慮事項については分教室職員がリードしながら個々の生徒の性情報をお互いに共有できるようTTの連携を図った。

(4) 研究仮説1「軽度の知的障害のある生徒の性教育において、個々のニーズに応じた小集団での授業を行うことで、自他の心や体について知識・関心を持ち、異性との関わり方を含めた望ましい行動選択ができるであろう。」の検証

検証授業2「専門家の先生に聞いてみよう」において生徒が書いた感想では、28人全員が、選択したテーマについての正しい性知識を記述することができていた（表8～表11）（表12）。

また、感想以外でも、自分の体についての質問を講師の先生に答えてもらった生徒が「ああすっきりした。」と晴れやかな顔をしているのを見ると、思春期の変化する自分の心や体について私の想像以上に不安を感じていたことがうかがわれた。

さらに、妊娠・出産について「誕生学」を学んだ女子が感動して涙が止まらず、教室から出てこれない様子もあった。こうしたことから、「命の誕生」を学ぶことは、これまで以上に自分の命の尊さや命のつながり、人間の素晴らしさについて学ぶことであり、性教育において最も難しいが、最も感動を与えられる内容であることを再認識した。「誕生学」については、分教室の生徒に必要な自己肯定感を高めることをねらいとしていることから、分教室の性教育において今後さらに研究・連携を行っていく必要があると感じた。

他にも、言葉が乱暴なことが課題であった男子が「男女交際」を学んで女子に優しくなった、男女間の距離が課題であった生徒が「性被害・加害」を学んだ後、距離について意識できているといった日常生活の変化に関する担任からの報告もあった。

望ましい行動選択については、「『性』という字は『生きる』と『心』と言う字でできている。つまり、どう生きる（行動する）かは自分の心で決めることができる。そしてその責任は自分にある。」という行動選択の原則を「すてきなオトナになるために」の全授業を通して何度も確認していたことから、行動選択について概ね理解した感想が多かった（表13）。

また、行動選択の判断基準とするための「正しい情報」を見極めることの大切さ、判断に悩んだときに相談できる「相談機関」を知ることの大切さについても確認した。望ましい行動選択については、軽度の知的障害の特性から、今後も繰り返し指導、確認することが必要であると考えた。

このように研究に取り組んできたが、軽度の知的障害のある生徒にとっては、性教育の予防指導的な側面と人生に向き合わせることができる側面の両面が人格形成に必要である。今後さらに研究・実践を重ね、分教室の生徒が「自立と社会参加」できるよう支援していきたい。

表12 自他の心や体について
(授業の感想より抜粋)

- 体の変化も人それぞれなんだと分かって安心しました。
- 思春期がいつ終わるかわかった
- 自分はパーソナルスペースを今後守っていきたいと思います。
- コンプレックスや個人差はみんなにあるとわかった。
- 相手の気持ちを大切にしたい。

表13 異性との関わり方を含めた望ましい行動選択について（授業後の感想より）

- たとえ遠回りになっても自分が後悔しない人生を選びたいです。
- 自分の人生は自分で決めることができるんだなと思った。
- 自分でさけられるトラブルにまきこまれない。
- 自分がきめた目標（夢）に向かって頑張る。
- 大人になることは、責任を持つことだと感じた。

IV まとめと今後の課題

1 成果

- (1) アンケート調査を行い、生徒の実態やニーズに応じたグループ学習を実施したことにより、分教室の生徒が、様々な性の課題に対して主体的に取り組む意欲の高まりが見られた。
- (2) 性のリスクや望ましい成功例（モデル）を提示することで、生徒が自分の将来の姿をイメージすることができ、自己実現へ向けた行動選択の具体策や自立と社会参加へ向けた具体的な行動を考えることができた。
- (3) 保護者、分教室職員、講師との連携によって、軽度の知的障害のある生徒の性教育の必要性や在り方について検討し、実践することができた。

2 課題

- (1) 分教室の生徒の望ましい行動選択について、繰り返し指導、確認することが必要である。
- (2) 性教育を継続的に行うための指導計画や指導方法、人材、教材等のさらなる整備が必要である。
- (3) 分教室の生徒の課題である自己肯定感を高める指導についてさらに研究を深めていく必要がある。
- (4) 分教室職員に加え、養護教諭や中農体育科職員との連携もさらに行っていく必要がある。

〈参考文献〉

- 木原雅子 2006 『10代の性行動と日本社会—そしてWYSH教育の視点』 ミネルヴァ書房
- 北沢杏子 2005 『子どもの性教育Q&A』 アーニ出版
- 三井善止 1999 『新生と性の教育学』 玉川大学出版部
- 人間と性教育研究協議会 2006 『人間発達と性を育む 障害児・者と性』 人間と性教育研究協議会
- 「健康教育」編集部 2010 『性教育実践アイデアノート』 東山書房
- 「健康教育」編集部 2014 『性教育・実践のファイル』 東山書房
- 児嶋芳郎・細渕富夫 2011 『知的障害特別支援学校における性教育実践の現状と課題—全国実態調査の結果より—』
埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要
- 菅沼徳夫・生川善雄 2012 『中・軽度知的障害児の性教育に対する特別支援学校教師の意識—教師への聞き取り調査を通して—』 千葉大学教育学部研究紀要
- 木戸久美子 2004 『知的障害を持つ子どもの性に関する親の意識についての研究—親と子どもの性差による比較—』
発達障害研究 第26巻第1号
- 大久保賢一 2004 『自閉症児・者の性教育に対する保護者のニーズに関する調査研究』 特殊教育学研究 第46巻第1号
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領』
- 文部科学省 2009 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高）』
- 文部科学省 2008 『学習指導要領解説（小）（中）』
- 文部科学省 2009 『学習指導要領解説（高）』
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 2010 『特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究—必要性の高い指導内容の検討—』
- 山梨県特別支援教育振興審議会 2010 『第2回山梨県特別支援教育振興審議会資料』
- 島根県教育委員会 2012 『島根県性に関する指導の手引』
- 喜瀬実名子 2008 『望ましい行動選択を目指す性教育—実態やニーズに応じた授業形態の工夫を通して—』 沖縄県立総合教育センター後期長期研修員第43集研究集録